令和6年度 大莞保育園 自己評価

評価分類	評価 A, 自信をもって B, 良好 C, 改善の余地がある D, できていない		観点	自己評価				
	内容			A	B	C	D	
1、運営・経営	組織運営	・職員は、園の保育理念、保育方針、保育課程を理解している。	保育課程の理解		○			
		・園は、保育指針、保育課程、子どもの実態をもとに、保育計画を作成している。	保育計画の作成	○				
		・園は、子どもや地域の実態に対応した特色ある保育内容に取り組んでいる。	園の特色	○				
		・園は、子どもと保護者の顔や名前を知るように努力し、園全体で子ども、保護者と関わるようにしている。	園児との対応	○				
		・園は個々の子ども、保護者の個人情報の管理の徹底に努めている。	個人情報	○				
		・園は就業規則を明確にし労働法制等を順守し、また産休・育休をとれる体制をとり職場環境保全に努めている。	職場環境	○				
		・園は、職員の人材確保、適正配置のための方策を講じている。	人材確保	○				
		・園は、理事会を開催し、監事の監査を受け、適正な法人運営を図っている。	法人運営	○				
		・園は、園長以下、それぞれの職務分掌を明確にして運営している。	職務分掌	○				
		安全管理	・園は保育園の園舎内の施設・設備、あるいは園庭などを定期的に点検し安全で適切な状態にしている。	施設	○			
	・園は、園内の遊具、教具、備品などの安全管理に努めている。		遊具	○				
	・園は、遊具の使い方、交通ルールやマナーなど生活に即した安全教育に努めている。		安全教育	○				
	・園は火災や地震などの自然災害に対する防災対策、訓練、また防犯対策が整っている。		防災対策	○				
	・園は事故などの緊急事態発生時に対応できる体制が整っている。		緊急体制	○				
	・園は、日常的に子どもの健康に配慮し、場合によっては必要な措置をとり、また、健康診断等を定期的実施し、園の保健衛生に努めている。		保健衛生	○				
	・園は「安全」に配慮すると同時に「安全」という言葉に委縮せず十分な保育を展開している。		安全と保育	○				
	職員		・園は、職員の健康や福利衛生につとめ、職員間のコミュニケーションをとりながら、職場環境の向上に努めている。	職場環境	○			
			・園は、職員が個々の子どもやクラスの状態に応じた指導を心がけ、それぞれのカラーを発揮して保育を展開できるような配慮をとっている。	職員のカラー		○		
			・園は、職員が自己評価を行い、自ら資質の向上、改善に努めるようにしている。	自己点検	○			
		・園は、様々な諸機関が開催する多様な研修会へ職員が参加できる体制に努めている。	外部研修	○				
・園は、状況に応じ必要な園内研修をもち、職員の資質向上に努めている。		園内研修	○					
・園は、職員の服装、髪型、身だしなみなどや、敬語の使用などの言葉遣いに注意を払うように促している。		態度			○			
1、園運営に関わる自由記述による評価	年間を通し、園内研修等を通じて園の保育理念・方針を改めて職員間で共有し、実践してきた。また、園庭の改造により安全面での配慮にも変化ができたが、重大事故に繋がらないリスクマネジメントができています。風通しの良い職場環境を目指し、職員間のコミュニケーションが取れていると感じる反面、保護者への言葉遣い等についてクレームもあった為、接遇についてしっかりと考えていきたい。							
2、保育	保育内容	・園は、その保育内容が養護と教育が一体となって展開されるように努めている。	養護と教育	○				
		・園は、子どもがそれぞれの興味関心、能力に応じて、全身を使い、全感覚を使って能動的に活動することができるように努めている。	健康		○			
		・園は、子どもが、生活の中で異年齢交流をはじめ、さまざまな子ども、人との関わりがもてる機会をつくっている。	人間関係	○				
		・園は子どもが、周囲のさまざまな環境に好奇心や探究心をもって関わるができるように工夫している。	環境	○				
		・園は、子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話を聞こうとする意欲や態度が育つように配慮している。	言葉	○				
		・園は、子どもが美しいものや、感動するものに触れ、感じたことや考えたことを自分なりに表現できるように工夫している。	表現	○				
		・園は、幼保小連携に積極的に取り組み、スムーズに接続できるようにしている。	幼保小連携		○			
		・園は、子どもが「食」に関心を持ち、「食を営む力」の基礎をつくるために食育に計画的にとりくんでいる。	食育		○			
		・園は、行事が、それぞれの特色を活かし、保護者、関係者、地域の人たちなどが楽しく参加できるように工夫されている。	行事	○				
		特別支援	・園は、障害のある子どもの指導計画をたて、統合保育を実践している。	特別支援	○			
	・園は、障害のある子どもを柔軟に保育できるような環境を用意している。		特別支援2	○				
	保育環境	・園は、乳幼児が心地よく健康にすごすことができるような環境、雰囲気を整えている。	環境全般		○			
		・園舎は、子どもたちの遊び、生活、保護者活動にも対応できている。	園舎	○				
		・園は、園庭・園地を子どもたちの感性、生育を助ける空間として整備がなされている。	園庭・園地	○				
・園は絵本紙芝居、あるいは教育書物などを十分に配置し、子どもや保護者に利用しやすい環境を用意している。		絵本書物	○					
2、保育に関する自由記述による評価	子ども達が自由に発想を広げ遊びを展開していける環境、又は保育者の関わりを大事にし、子どもたちが主体的に物事に取り組めるような保育を目指してきた。今後はさらに保育者自身が時間に縛られず、ゆったりとした時間を子どもと共有することができるよう努めていく。							
3、子育て支援	教育相談	・園は、園児や卒園児の保護者からの子育ての相談を受けている。	相談	○				
	未就園児	・園は、未就園児が親子で楽しめる機会を設けたり、子育て相談を受けるなど、地域の子育て支援のための取り組みに努めている。	未就園児			○		
	子育て支援	・園は、預かり保育に取り組んでいる。	預かり保育	○				
3、子育て支援に関する自由記述による評価	保育を必要とする保護者に対し預かり保育の提供を行っている反面、地域の保護者・児童に対し園庭開放などの子育て支援の取り組みについてはコロナ禍以降実施できていない現状があるため、地域子育て支援の充実に努めていく。							
4、家庭、地域との連携	家庭	・園は、保育の方針や方法について保護者に十分説明し、保護者から信頼を得て保育を行って	信頼関係	○				
		・園は、乳幼児の育ちに必要なことを、保護者、あるいは関係機関と密接な意見交換をもち、必要な情報の共有に努めている。	個別対応	○				
		・園は、アレルギー、自立の遅れ、育ちに関わる諸問題について家庭との連携をとりながら適切に対応している。	育ちの諸問題	○				
		・園は、保護者の要望を真摯に受け止めて、教育的な意味付けをもったうえで実施している。	要望	○				
	・園は、保護者からのクレームがあった場合に、園として誠実に対応している。	クレーム	○					
地域	・園は、地域への散歩、小学校との交流など地域と密着した活動に努めている。	交流	○					
4、家庭、地域との連携に関する自由記述の評価	保護者を対象に「保育体験」を実施し、例年以上に保護者とコミュニケーションを取る機会を増やした。また、懇談会、家庭訪問などを通して園の方針等を十分に説明し、保護者からの理解を図ることができた。園内に関わらず、園外での挨拶等の徹底を職員間で共有し、より地域に根付いた保育園を目指し努めていく。							